

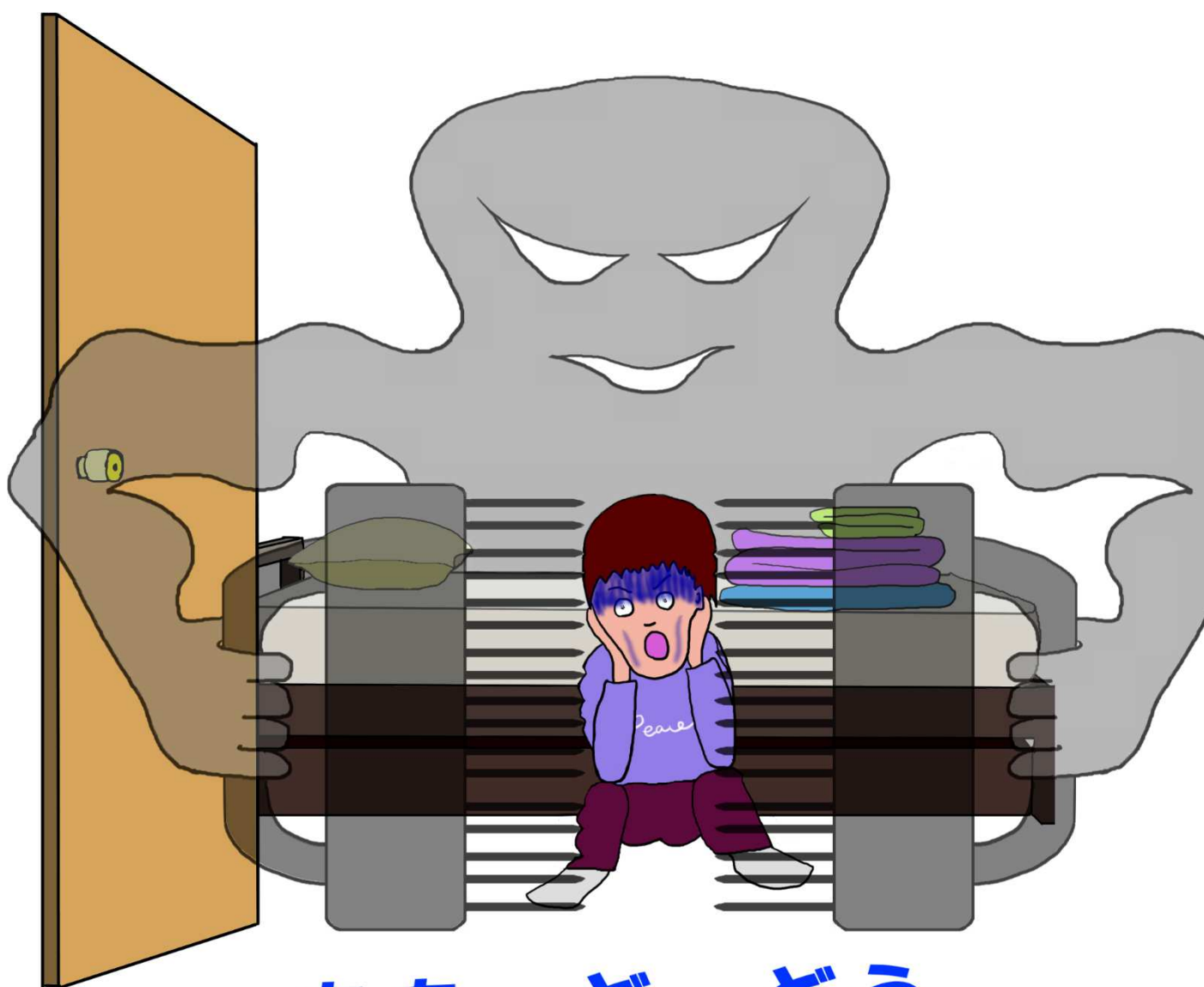
常住死身

Memento mori



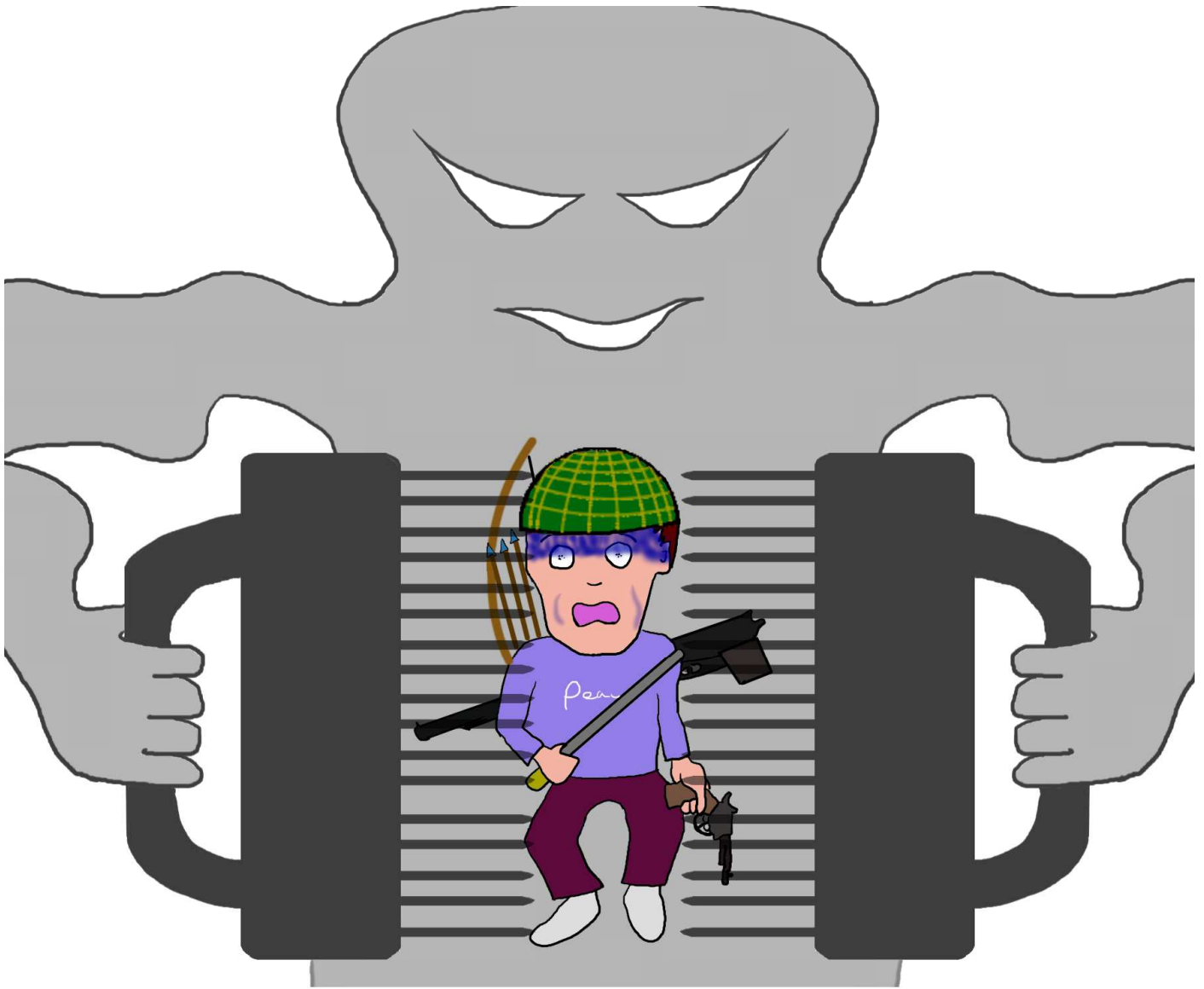
東郷 潤

あるところに、臆病な人がいました。人も怖ければ、闇も怖い。失敗も怖ければ、死ぬことも怖い。何もかもが怖くて仕方がありません。



ああ、ど、どう
すればいいんだ？

彼は自分を守ろうと、武器をたくさん集めてみました。・・・でも、怖さは一向に納まりません。



ああ、こんなんじゃ、ダメだ。
どうすればもっと強く
なれるんだ？

藁をもつかむ思いで、彼は1冊の本¹を手にしました。



それはサムライの本でした。強くなって、少しでも恐怖を減らすための、ヒントが欲しかったのです。

¹ 「葉隠入門」三島由紀夫著（原文は山本常朝著）カバーデザイン田中一光 光文社。三島氏の割腹自決3年前に出版されたもの。

そこには思いもよらぬことが書いてありました。

武士道といふは、死ぬ事と見付けたり。二つ二つの場にて、早く死ぬほうに片付くばかりなり。

別に仔細なし。胸すわって進むなり。図に当たらぬは犬死などといふ事は、上方風の打ち上りたる武道なるべし。

二つ二つの場にて、図に当たることのわかることは、及ばざることなり。

我人、生くる方がすきなり。多分すきの方に理が付くべし。

若し図にはづれて生きたらば、腰拔

けなり。この境危ふきなり。図にはづれて死にたらば、犬死気違なり。恥にはならず。

これが武道に丈夫なり。毎朝毎夕、改めては死に改めては死に、常住死身になりて居る時は、武道に自由を得、一生越度無く、家職を仕果すべきなり。²

² 手持ちの「葉隠れ入門」P.178 より引用した。以下、葉隠入門の笠原伸夫氏と原本現代訳の松永義弘氏の訳を参考に意識してみた。ご参考まで。

武士道は、死ぬことだと見つけた。生死の選択の場で、早く死ぬ方を選ぶというだけのことだ。何も難しいことはない。腹を据えて進むだけだ。思い通りの結果にならないければ犬死などというのは、上方風の思い上がった武士道だ。生か死かという選択の場で、思い通りの結果が

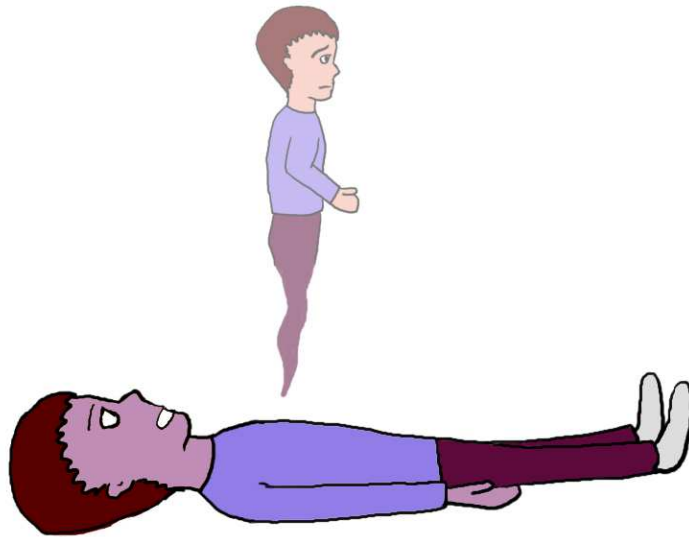


びっくりしました。死ぬことは、悪いことではないのでしょうか？ しかもそれが犬死であっても！？

得られるかどうかなど分かるはずもない。人は、生きる方が好きなもの。きっと好きな方に理屈を付けることだろう。もし思い通りの結果にならずに生き残ってしまったら、腰抜けとなる。ここの境が危ないのだ。もし思い通りの結果が得られず死んだならば、それは犬死の気違いとなる。しかしそれは恥ではない。

この境を知ることで、武士道をしっかりとしたものに出来る。毎朝毎夕、死の覚悟を新たに、常に死身になっている時は、武士道で自由の境地を得て、一生あやまちなく、職務をまっとうすることが出来るだろう。

騙されたと思って、本に書いてあった
「毎朝毎夕、改めては死に」を試してみ
ました。つまり、自分の死を想像し、そ
れをなんとか受け入れようとしてみた
のです。



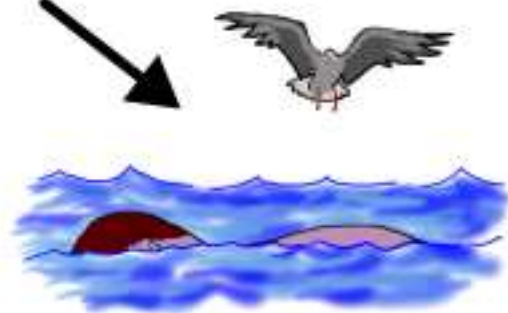
すぐに恐怖が襲ってきました。



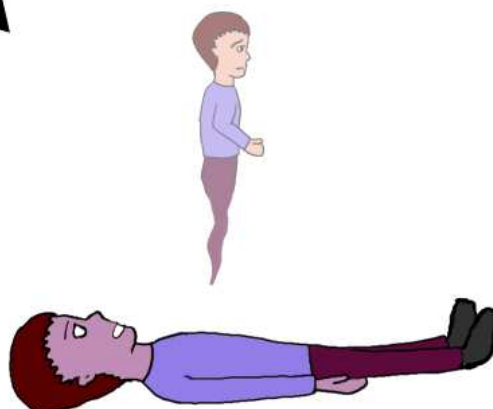
ああ、怖い！

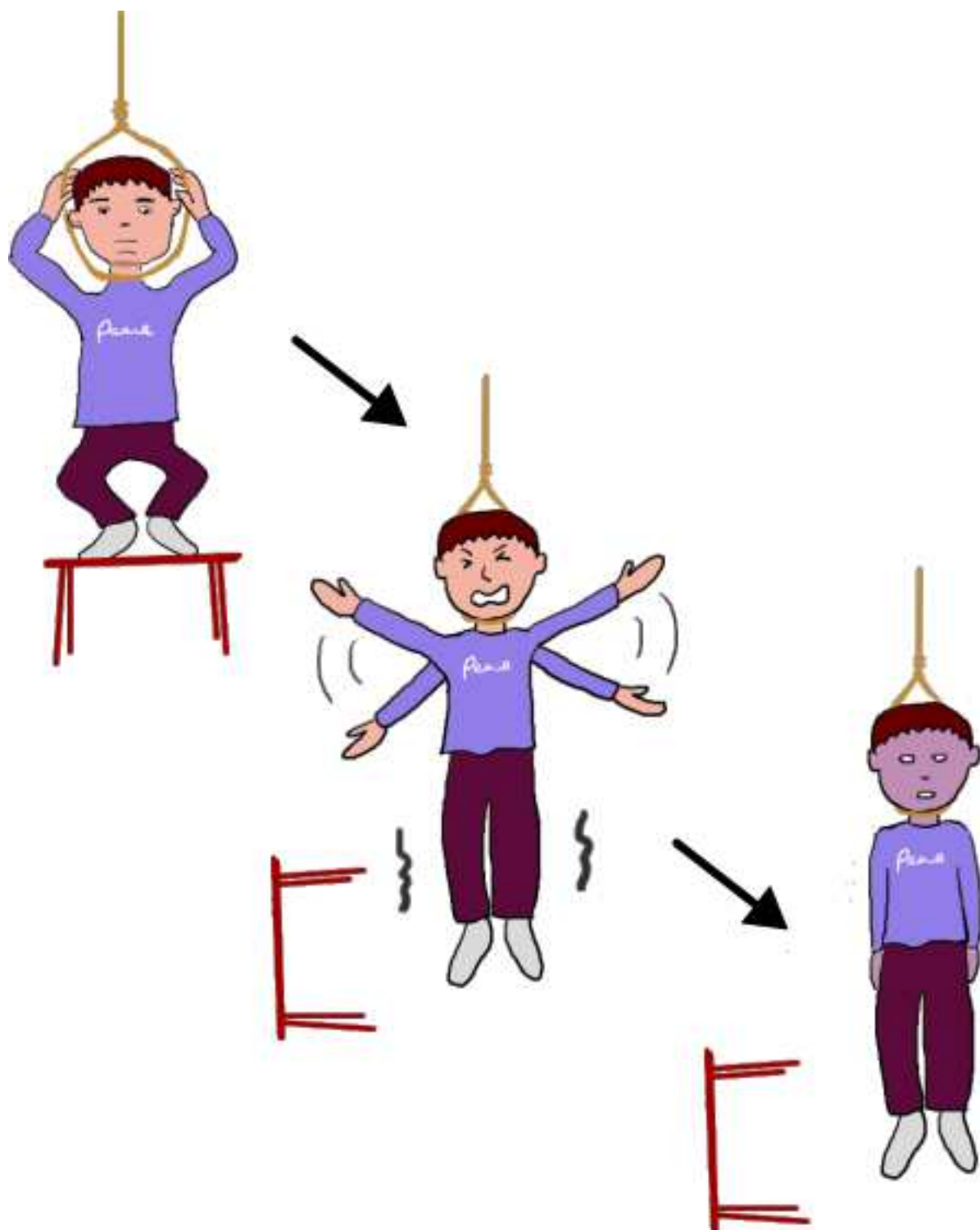
しばらく何も考えずに震えていると、
少し落ち着きました。・・・そこで再
び自分の死を想像しました。色々な
パターンの死を出来るだけリアルに、
です。





ああ、
怖い！





ああ、
怖い！

もしこのまま恐怖のあまり狂い死にするなら、それでも構わないと思ったのです。



いつまでも怯えて過ごすことには、もう、うんざりでした。³

³心が納得するのには、時間が掛かるものです。このエクササイズに限らず一般に心のエクササイズは、少しずつ自分のペースで時間を掛けて行なうことをお勧めします。なお折に触れ、鏡を覗き込み自分の目を見ることは、自分の状態を客観視出来るので、正気を保つために大変有効な方法です。なお絵本「人命は何よりも大切だから」でも同じ死の想像をしていますが、その目的が異なれば、結果は全く異なるでしょう。

どれくらい時間がたったでしょう？



・・・まだ発狂してはいないようです。

**死ぬ前に、部屋の掃除
でもしておくか。**



・・・ふと、気づきました。自分が死を
すでに受け入れていることを。

**生きている人間は全員、死ぬ。
それって当たり前のこと。**

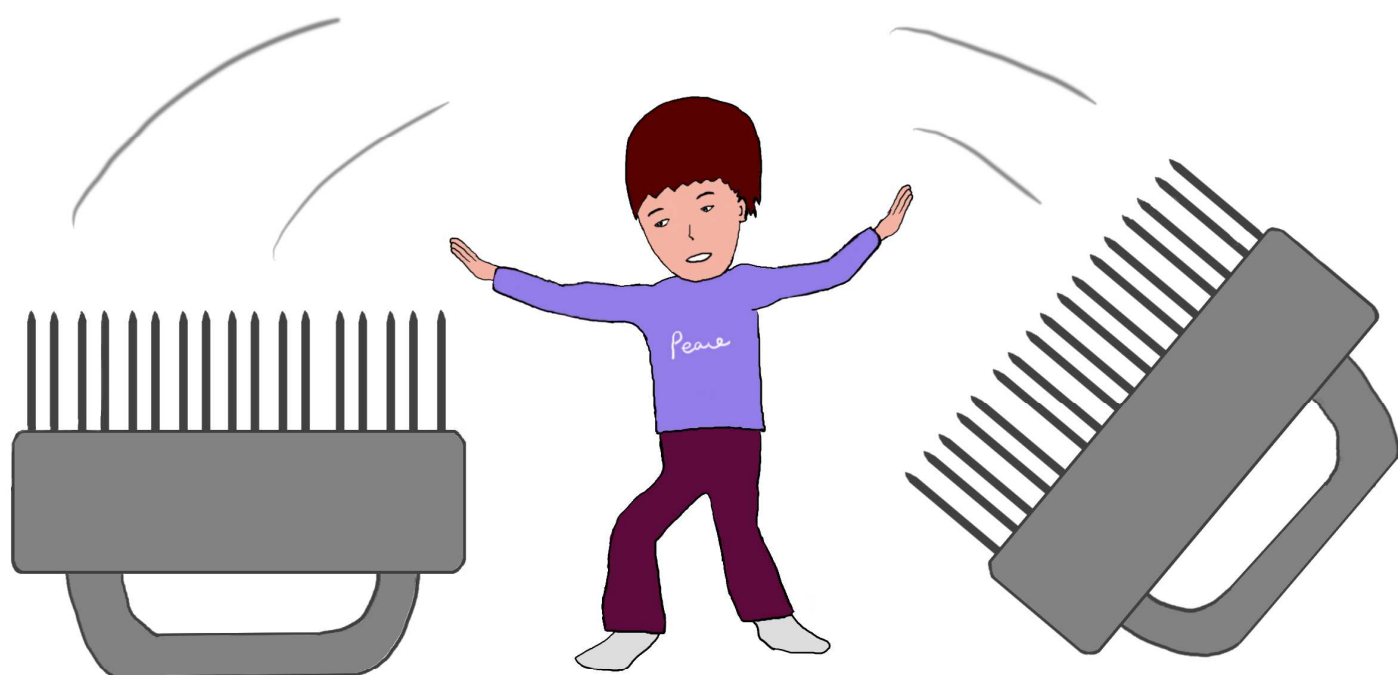


**何かに挑戦して失敗しても、
最悪死ぬだけ。
どうってということはない。**

**犬死かどうかは、生きている
人間が判断すること。
死者にはそんなの、関係ない**

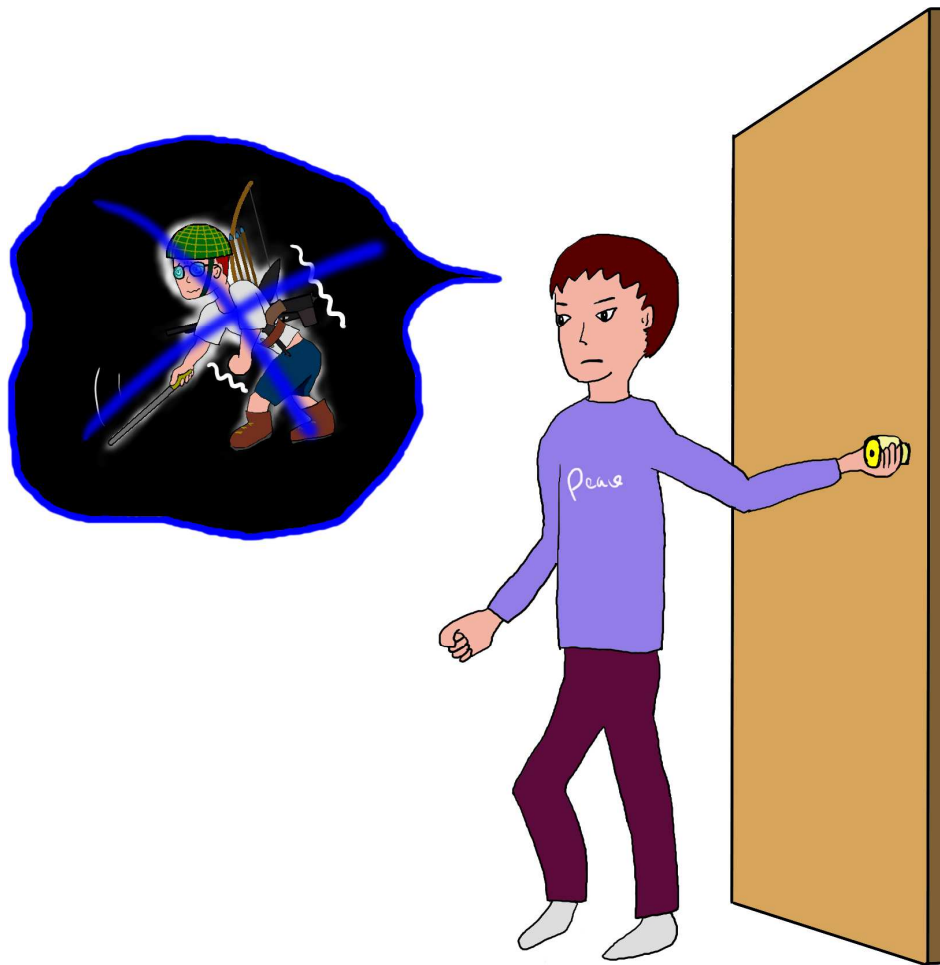
**どんなに辛い現実も死ねば
終る。怖がることはない。**

**僕は死ぬ。それまで
精一杯、楽しむか。**



俺、なんだか自由だ・・・

急に、真っ暗な夜道を散歩したくなりました⁴。とても怖かった闇の中で、自分が冷静でいられるかどうか、試してみたくなったのです。



彼はたくさんあった武器を家に残し、家を出ました。

⁴絵本「怯える人々」をご参照ください。

闇の中を歩き始めました。



**あ、白いものが飛び出しました。お化け
でしょうか。殺されるかも！**

・・・ま、殺されても死ぬだけですけど。



白い影は、人間でした。

再び、闇の中を歩き始めました。

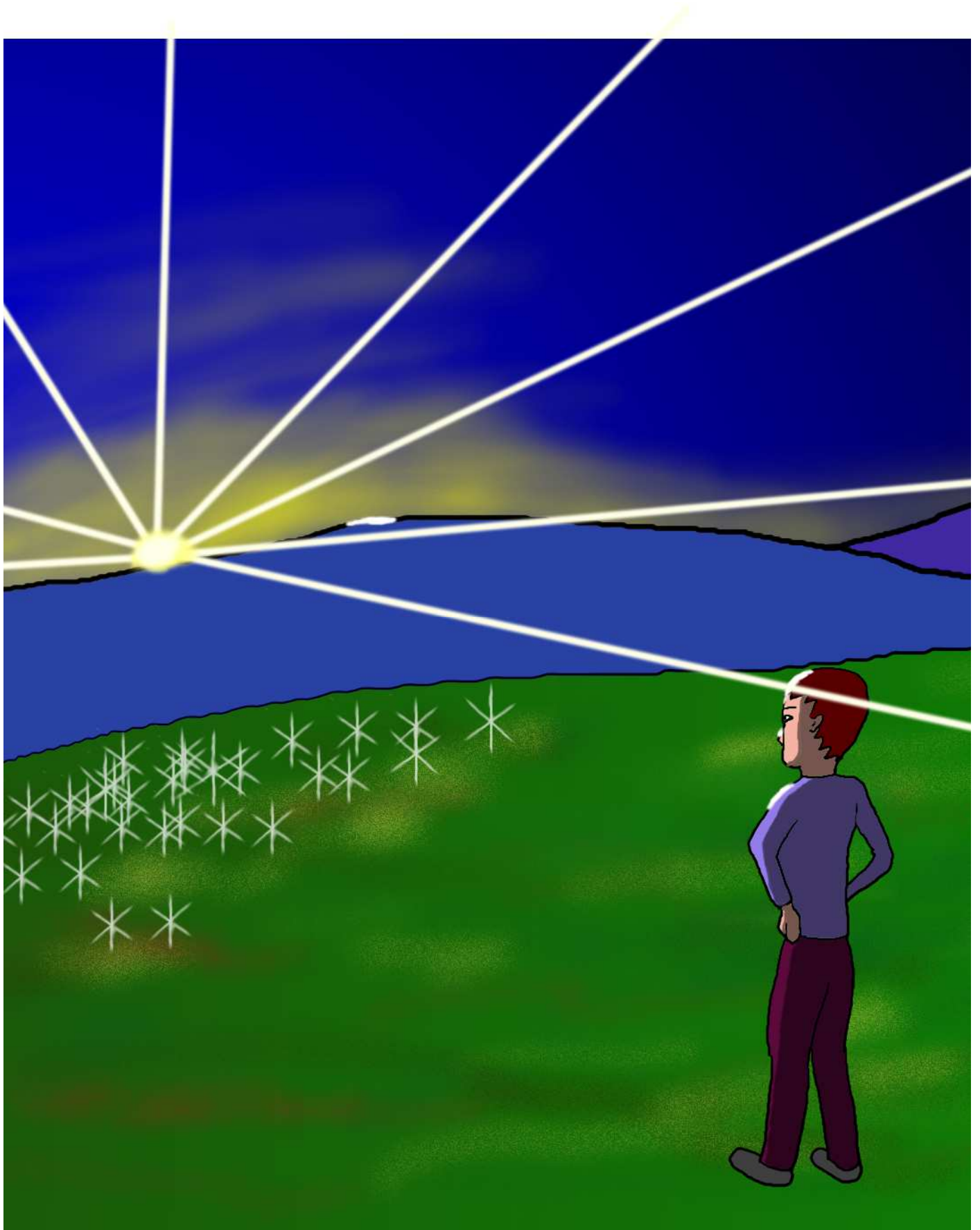


再び、白いものが飛び出しました。怪物
でしょうか！？



白いものは、人間でした。

夜が明けてきました。



あとかき ー絵本「常住死身」

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2012